

作り、雨降りの時分、水入ざるやう仕るべし、夫に付、夫婦かけむかひのものにて、馬をも

持ことならず、こえため申儀もならさるものハ、

庭の内に三尺に式間ほとに堀り候て、其中へ

はきため又ハ道乃芝草を入、せゝなぎの水を

流入、作こえをいたし、耕作へいれ申へき事

一百姓は分別もなく、すゑの考もなきものに候故、

秋になり候へハ、米雑穀をむさと妻子

にも喰せ候、いつも正月二月三月時分

の心を持、食物を大せつに仕へく候に付、

雑こく専一に候間、麦粟稗菜大根、

そのほか何にても雑穀を作り、米を

多く喰つぶし候ハぬやうに仕べく候、

きゝんのときをぞんし出し候へハ、大豆乃